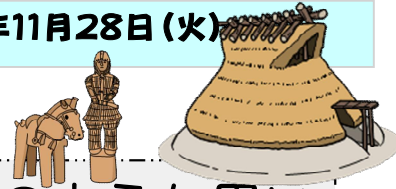


富士宮市立内房小学校 体験授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年11月28日(火)



「古代の装飾品を作りながら、古代日本人がどのような思いで勾玉を作っていたのか、思いを馳せることができました。」

富士宮市立内房小学校の5年生と6年生19人が、施設見学や体験的な活動を通して、子どもたちの歴史や文化財に対する興味・関心を高める目的でセンターを訪れ、展示室の見学と勾玉作り体験を行いました。

展示室の見学



「説明がわかりやすかった。」

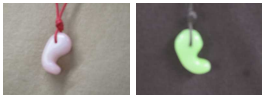
「貴重な資料を見ることができて良かった。」

「埋蔵品はとても丁寧に扱わなければいけないことが分かった。」



セミナールームでセンターの仕事について話を聞いた後、3つの展示室を見学しました。子どもたちは、メモをとりながら職員の話の聞いたり、発掘された本物の土器や石器を見たりして興味津々でした。6年生にとっては、教科書や資料集で見たことのある物が目の前にあり、真剣なまなざしで見入っていました。

勾玉作り体験



勾玉の形や石の材質、用途などについて話を聞きました。歴史的な背景を学ぶことができ、良かったようです。次に、いよいよ勾玉作りを始めました。キットの袋を開け、石と紐と3種類の紙やすりを確認し、第1段階で1番粗い紙やすりで大まかな形を作ります。角を削って

いきますが、みんな形を作るのが上手で、比較的早く第1段階をクリアしていきました。中には、同じ所を削りすぎて、薄くなってしまいう子どももいましたが、

それでも形になり、第2段階へ進み、キズを取り、第3段階で表面をツルツルにし、紐を取り付けて完成しました。

「古代の人はやすりもない中で硬い石を削っていたと聞いて、改めて古代の人の知恵と努力が分かった。」

「歴史的な背景を学ぶことができた。」

「教え方がとても上手でやさしく教えてくれたのですごくありがたかった。」



先生方の感想

「古代の装飾品を作りながら、古代日本人がどのような思いで勾玉を作っていたのか、思いを馳せることができました。作り方を動画と手本で丁寧に教えてくださったので、活動がスムーズにできました。仕上がり具合が心配な子どもたちが、何度も確認しに行く中、優しく対応してくださいました。展示室でも詳しく説明してくださりありがとうございました。」

